

山ぼうし

第27号 平成19年 6月29日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



「東の世界戦に思う」

校長 兼 平 栄 補

6月4日（月）八重樫 東（あきら）選手（黒工、拓殖大卒）のプロボクシングWBCミニマム級世界タイトルマッチが行われた。岩手県人として二人目の世界戦であったが、第2ラウンドの偶然のバッティングにより顎がはずれるアクシデントがあり（チャンピオン1点減点）、惜しくも判定負けとなった。チャンピオンになれば、第7戦目での王座獲得となり、日本最速を記録するところであったし、県人初のチャンピオンであったので大変残念である。ただ、日本最速という話題づくりの犠牲になったという見方をする関係者もいる。もう少しプロでの経験を積ませてから挑戦させたかったように思う。負傷を押して最終12ラウンドまで戦い判定に持ち込んだ根性には感動した。中盤、終盤には口を締められなくなり、マウスピースの出し入れもままならない状況であったようだ。後で分かったことであるが、顎を2カ所骨折していたそうである。常人ならば痛みにより失神してしまうような状況であったようだ。6月12日（木）母親から無事手術が終了した旨のメールが入ったが、再起の可能性などについては不明である。

私は、平成11年の岩手インターハイの年に、以前本校職員であった辰柳先生と交代する形で黒工ボクシング部顧問に復帰した。

（辰柳先生は、現在黒工に戻りボクシング部の顧問に復帰した。）当時東は2年生であったが、インターハイではモスキート級（45kg以下）でベスト8に入っている。そして翌年の3年次に岐阜インターハイの同級で見事に全国優勝を果たした。岩手インターハ

イの選手強化の財産もあり、岐阜インターハイではバンタム級（54kg以下）でも黒工のN選手が2位に入賞している。

後に東は拓殖大学に進学し、国体のライトフライ級（48kg以下）で優勝している。

ボクシングの練習は、ロードワーク、ロープ（縄跳び）、シャドウボクシング、ミット打ち、スパーリングまたはマスボクシング（寸止め）、サンドバッグなどであるが、練習は集中して行われ、3時間弱で終了する。しかしかなりハードである。競技は1ラウンド2分の3ラウンドで行われるが、並の運動競技経験者ではマスボクシングでもおそらく30秒と持たないであろう。減量苦も伴い（過酷な減量は禁止されている）、育ち盛りの高校生にとっては過酷なスポーツである。東とNは、練習終了後もロードワークをこなしたり、サンドバッグをたたいたりと自分をいじめ、さらに帰宅後には近くにある神社の階段登りをするなどした。また、視力の弱い東は、視力向上の努力も怠らなかった（試合前には視力検査があり、基準に達しないと棄権しなければならない）。

東の姿勢は、まさに「努力は（人）を裏切らない」を地でいった良い見本であった。努力は人に言われたからするのではなく、また人に見せるものでもない。「勝利したい」その一念が彼を動かしたと思う。彼の復帰戦での勝利を期待する。

最後に、今年の新入戦は、宮古水産高校で行われる。興味のある方は観戦して欲しい。

7月行事予定

7月 2日（月）～ 5日（木）	三者面談 （午前授業）	7月 13日（金）	パソコン検定, CAD検定, 数学検定
3日（火）	いきいき宮工業事業推進委員会	15日（日）	津波模型放送（IAT 23:00～）
5日（木）～ 6日（金）	東北高P連（山形市）	22日（日）	第2種電気工事士実技試験
6日（金）	機械製図検定	23日（日）～ 25日（水）	県工業系高校生徒会連絡協議会
9日（月）	週課題確認テスト	26日（木）	授業納め式
11日（水）	母親交流会	27日（金）	一日体験入学, 夏期休業（～8月19日）
12日（木）～ 24日（火）	高校野球県大会		

《校内球技大会》

定期試験も終わった6月13日（水）と14日（木）の2日間にわたり、校内球技大会が実施されました。参加チームは全校10クラスに職員チームを加えた計11チーム。試験勉強で持て余してきた若いパワーをはじけさせ、そのチームワークと競技力を競い合いました。

競技種目は、アンケートから実施可能なものが選ばれます。ここ数年はずっと5種目でしたが、新種目をという熱い要望に応え、

《大会成績》

	1位	2位	3位
総合	M 3	E 2	職員
野球	E 2	職員	E3/M1
サッカー	F 3	M 1	M3/E2
バスケ	I 3	M 3	E 1
バレー	E 1	職員	F 1
卓球	E 2	M 1	職員
バドミントン	M 3	E 2	F2/職員
ドッジボール	M 3	E 1	F 2

時間調整して新たに2種目（バドミントン・ドッジボール）が追加されました。また、全ての運動部が協力して開催しようとのコンセプトで、これまで仕事のなかったクラブも新種目の審判や体操指導・選手宣誓として協力しました。

総合優勝は「機械科3年チーム (188pt)」、2日目の活躍で、初日4位からの逆転優勝でした。準優勝は「2年電気電子科チーム (162pt)」、3位「職員チーム (152pt)」。初日1位の機械科1年チームは2日目に得点を伸ばせず、総合4位と惜しくも入賞を逃しました。（種目別順位は表を参照）

※ 成績表中、M:機械科、E:電気科/電気電子科、I:電子機械科、F:設備工業科/建築設備科



高総体柔道個人戦準優勝・東北大会出場

6月1日から3日まで岩手県営武道館で開催された第59回岩手県高等学校総合体育大会柔道競技（男子個人戦90kg以下級）に、本校機械科3年の成ヶ澤君が出演し、見事準優勝を果たした。昨年の新人大大会個人戦でベスト8に留まった成ヶ澤君は、高総体ではシード選手として出演し、初戦から準決勝まで跳ね腰や大外刈を駆使し、すべて1本勝ちで決勝戦へ進出した。決勝戦では、盛岡大学附属高校の畠山選手と対戦し、規定の4分間では勝敗がつかず、昨年から導入されたゴールデンスコア（4分間のサドンデス型の延長戦）に突入した。開始から優位に攻めていた成ヶ澤君だったが、残りわずか1分となったときに相手ともつれたところで「効果」を取られ、惜しくも優勝を逃してしまった。柔道競技では優勝者のみインターハイ出場となるため、残念ながら出場はできないが、堂々の準優勝、そして東北大会出場の権利を手にする快挙となった。



東北大会は、6月23日・24日に、青森県青森市青い森アリーナにて開催された。各県の3位入賞以上の選手が集まって競われるこの大会で、初戦、強豪青森山田高校の橋本選手と対戦した。同じ階級ではあるが、自分よりひとまわりくらい体格のよい選手に対し成ヶ澤君は果敢に攻め、お互いポイントを取り合う激戦となったが、同スコアでゴールデンスコアに突入し、残りわずか10秒で相手に「効果」を取られ惜敗した。



東北大会にてポイントを取る成ヶ澤君

7月上旬に、全日本ジュニア選手権東北大会が控えており、今回の悔しさをばねに悔いのない試合をしてほしい。最後に、今回の全国選拔出場に関して、多くの方々から激励の言葉を頂戴しました。この場をお借りし御礼申し上げます。